

見ていますが、一方世帯数について見ますと、正徳四年

の横地帳によると、四十八戸と数えることが出来ます。

明治八年まで百六十余年間に一戸をけ断絶してはいますが、他に増減はなく、殆んど一家が代々家名を世襲して明治に至っています。所在地も幾分の移動はあつてはいますが、明治以降のような事事は無かつたようです。世帯数は前述の如く正徳四年が四十八戸、明治八年四十七戸ですが、明治十六年には二戸分家が出来て四十九戸となつています。其の後時代は推移と共に多少の増減はありましたが、毎に井ノ上五十戸と言われて来ましたが、五十戸前後のようでした。戦後一時六十戸と数える時があつたが、現在は奇しくも正徳年間と同じく四十八戸であります。今も農山村の過疎化が問題視されてはいますが、正徳以来二百五十有余年続いた四十八戸だけは守り続けられたものであります。

二百五十年経ても戸数四十八 正徳四年に遡る

をを知る。

明治八年の地価取調帳には上表後には年号はありませんが、中に「三百二十八番 字櫻掛 一 荒田左衛門十五歩」と云う箇所がその

当、明治八年より五十年起返シ見込」と云う箇所がその

ので、明治八年を乃うと思われまふ。

順序がまちまちありまふが、正徳四年の名寄帳に当るものには、表紙はありませぬ

嘉永三年のもの第一頁には
「田尻村組之内井ノ上高尾津留、古畑成用御横地高帳
目方 村中 一、上
かふすき甚吉名受中畑八畝十九歩高六斗九升六勺七才
ノ内三畝拾歩 高六斗六升六合六勺七才畑地引残改地
前中田五畝七歩 此度用受と相成候」

とある。この外いかにあるもので引ついでしてしるべし
の次第である。
(おわり)

研究

佐伯の港はどんな働きをさせているか

——主として木材の流通について——

大分県立佐伯豊高高等学校

教諭 同校郷土誌クラブ顧問

本谷金良 市野瀬

仁

第二章 佐伯港

第二節 その社会的環境

私達郷土誌クラブ員は、佐伯の海事官庁出張所の推察
をあげ、県内の港と比較して、見ることにし、佐伯港の
特色をつかむことにした。海事官庁は政府の出先機関で
あるので、地域への強い要望はこたえて設置されたものや、
管理上必要とするものや、港の宝飾も発展性等考慮して
設置されたものであらうから、港の特色はかりでなく、
その資格もつかかえる。

訪問してみると、いざれの出先機関も、旧海軍航空隊
の防備隊の旧い建物を利用して、濃霞山の裾を半円
にとりまいた所に散在しているという恰好であるが、濃
霞山の裏の岸壁に「佐伯港港合同庁舎」の建設が進行中
であつて、来年四月頃には完成するから面目を一新するで
あらう。「港が良すぎた設備が悪い」と言つたおぢいさん
の言葉を思い出した。

私達は、それぞれの出張所で仕事の内容を聞いた。

資料の説明を聞いたり、研究のテーマにそつて質問し解答を得た。なかでも日本各地で勤務した尊い経験と、広い視野から佐伯を見て、冷静で確直な批判を述べられたことは、私達の最も興味あり、又参考になる点であつた。

英國人は自國の悪口を云つてくれる外國人を歡迎するがさうだ。たゞし英國及び英國人に對して愛情がこもつてゐることが前提である——といふ意味のことと讀んだことがある。正しいものをつかむためには、全国的な立場で佐伯港を見てはじめてホントの安か分りなであつて、私達は、果外の人の意見をやゝおろかひんで受け入れるかといふ持ちをいと思ふ。時によつては人工衛星から世界の中の日本を見たり、一方濃霞山の頂上から、悲しみを胸にいだいて歩く人々後姿を、見落さないような氣持で觀察したいものだと思つてゐる。

一、海事官庁

(一) 資料から見えた佐伯港

④ 大分県海事官庁

	海運局	海上保安部	税関	検疫所	植物防疫所	入国事務所	海防事務所
大分	○	○	○			○	
別府			○				
豊後			○	○			
津見	○	○	○	○		○	
佐伯	○	○	○	○	○		○
中津							○
関崎							○
姫島							○
坂崎							○

(後藤)

⑤ 海事官庁の仕事

種別	港湾	名	計
重要港湾	大分	別府 津久見	3
地方港湾	佐伯	中津 佐賀関 臼杵 国東 高田 任美 姫島 富永 守江 浦代 武蔵 下江 白野 丸市尾 堅未 龜未 日出 坂市 巖毛	20
			23

右の二つの表でもわかる通り、佐伯は多くの海事官庁の出張所をもつてゐる。入国管理事務所も設けてほいといふ声もあるが、やがて設置されるかも知れない。とくに植物防疫所は、大分、姫島をも兼ねてゐる状態である。

⑥ 大分県の港湾

(後藤)

佐伯は昭和四十五年度には重要港湾に指定される予定

計

23

(押井)

② 昭和四十一年度港灣取扱貨物 (單位)

品名	輸出	輸入	外貨計	移出	移入	内貨計	合計
大分港	一、四八六	二、二五二	三、七三八	一、九二一	七、八七四	二、七七八	四、一四九
別府港				四、七三三	二、三六五	六、一〇八	
佐伯港	二九、三五九	一〇〇、〇七五	一二九、四三三	四九、八九九	一〇、五八二	一、五五八	一、六六四
津久見港	九二、四三三	六、一九七	九八、六三〇	五、七二六	五、四三六	六、二七二	七、二〇八
臼杵港		八、〇五四	八、〇五四	一、七六六	二、三四三	四、一〇九	四、一〇九
佐賀關港		四、五八三	四、五八三	六、八六三	三、四九三	九、六七六	一、三三〇
合計							

(柳井)

(二) 佐伯海事官庁出張所

1. 検疫所

検疫には人、動物、植物の三種に分かれる。検疫所は人間を扱う所であるから、外国から入った船は一人でも検疫することになっている。佐伯の検疫所は二軒の沖合に一定場所に限られ、一定期間そこに碇泊させて検疫する。

佐伯港では昭和三十七年、沖渡から砂糖を積んで入港した船員に、コレラ保菌者を発見したことがあつた。

水際で佐伯市民を守っていることを知つた。また係官が港に入る外国船を詳細に記録にとつてい

る。私達は次のように整理して見た。

③ 佐伯港へ航隻数及人員

年度	航隻数	人員
昭和四十一年	四〇	一、九二八
昭和四十一年	四一	二、〇三三
昭和四十一年	四二	二、一三三
昭和四十一年	四三	二、二三三
昭和四十一年	四四	二、三三三

④ 佐伯港に入港する外国船の出港地

昭和四十三年度調査 (後藤)

出港地	六月	七月	八月	九月	十月
フィリピン	六	一	二		
沖繩	四	五	二		
インドネシア	七	四	八		
ソ連			一		
アメリカ	一	二	二		
台湾					
シンガポール					

2. 税関

前号に記したように、石間沖に碇泊中の紀洋丸に案内して下つたのが税関の方であつた。

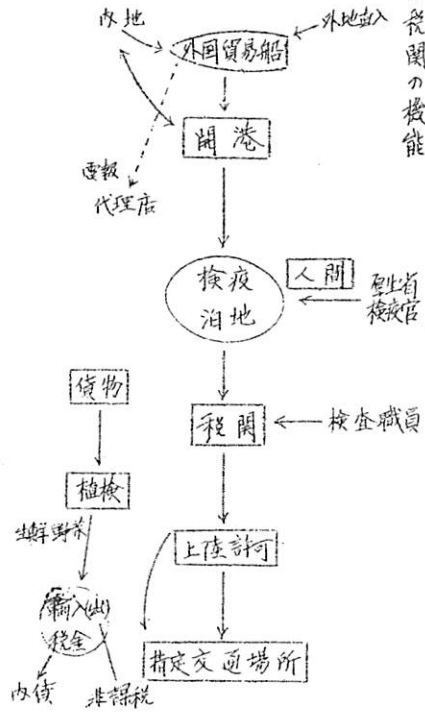
造船所に隣接した一角にある「門司税関佐伯支署」の看取の建物は小さく、場所からいって主人の往来は少い所だ。係官は私達のように来客は初めてなので、署

長はじめ係官は挨拶して下さつた。若い係員は五時を

ついでに過ぎたのも意に介せず、外国船が入港すると次のような順序で検査をするを指示してくれた。

上掲④の統計からみると四十四年度は九月までの実績で、すでに昨年度を上まわり、異常な伸びをしてみせられた。佐伯港の規模として、二五〇の貨物取扱量であることが云々である。そして佐伯港については、波浪が少く非常にありがたが、給水、給油の施設がなにか欠点がある。ついでに、水質、セメント、チップが主なる品目である。

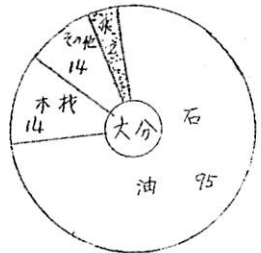
① 税関の機能



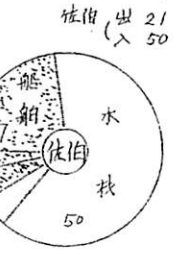
② 九州山口の貿易 (単位: 億円)

一七六八年 門司長崎税関統計資料 (による)

そして、黄つて帰った資料の中には「九州山口の貿易」として、全国輸出入別港勢表があげられて、大分県のみピックアップして見ると次の③、④の図表のようである。



凡例
輸出 (黒点)
輸入 (白マツ)



④ 一七六八年 全国輸出入別港勢表 (日本税関協会 門司支部)

輸出

津久見	47位
佐伯	50位
大分	75位
佐賀関	90位

輸入

大分	39位
佐伯	63位
津久見	91位

ハ、植物防疫所

所長は防疫所が設けられた昨年(昭和二十一年十月十六日)門司から転勤された方で、仕事は外貨についている害虫の有無の検査と予防である。テキパキとキイ出した。

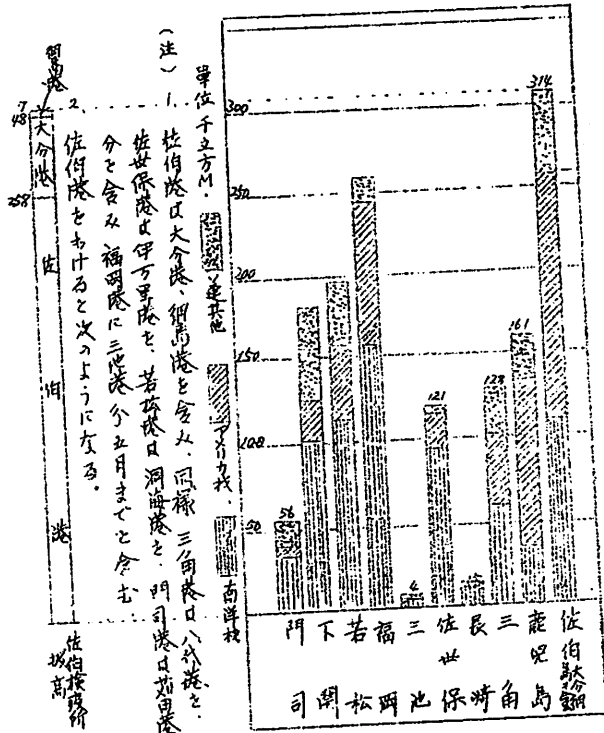
佐伯は「この通り九州一位、木材輸入港です。」と壁にかけられた統計(四表⑧)を指しながら次のように話してくれた。

佐伯港が木材集積場となつたのは、昭和四十二年の海運ストライキで、日本各地の港に破泊していた木材専用船の滞船料が嵩むんで、窮して避難場所を目を付けたのが佐伯港であった。それ以来木材輸入船舶が激増したため、昨年十月地元へ要望にこたえて設けられるようになった筈と話される。

昭和四十年に、五一六万平方メートル貯水場が、四十三年に三〇〇万平方メートルに二倍に伸び、またまた仕事も増しているけれども、佐伯港は、高知港、和歌山港等に入ると一時的中継地となつてゐる所にその性格がある。それは、東シベリア方面からくる外貨入中から発見した害虫を、専門に蒐集した標本を見せて説明された。

② 門司管内木材検査実績表

(所別四年一月一六月)
(本冊)



(注) 1. 佐伯港は大分港、鹿兒島港と受入、同様に三浦港、日南港と、佐保港、伊万里港と、若松港、日南港と、門司港、日南港とを合算し、福岡港に三浦港、分五月までを合算し、佐伯港を別と次のようになる。

植物に關する病害の研究は、動物と違つて手数がかかること、その方法も顕微鏡を操る程度で他の研究分野より遅れていると、若方、一端とうかがえた。また木材の消毒法においては、陸上燻蒸、本船燻蒸、水中薬剤の三方法がある。とくに水中薬剤の消毒については、浅海井附近の人々から不安の聲があつたので、説明して納得してもらい、又其の後も異常がなかつたので、今では安心してゐるようである。

仕事をしているといふいろいろの事に出会ふらしく、ニ斗合板社長が東南アジアから、マホガニーの苗木四十本を持ち帰り、佐伯で育てようとしたが、これだけはご法度ということ、全部焼却したという。今話している所長

室の周囲の建築材は殆んどニ斗合板の木の空置したものがたうだが、法の前ではいかんともすることばできなかつた。

入国禁止のものに土がある。かつて沖繩の高校野球の選手が、甲子園に出場惜敗した際威風凛々をこめてグラウンドの上をかき集めて持ち帰ろうとしたが禁止されたこと、この法の厳しさを物語るものがある。

帰りしなに所長に對して、佐伯港について一言の注文を——とお願ひしたところ、次のようなお答えが返つて来た。

第一にブイがない。そしてよい岩壁がない。又公共荷揚場所がない。公共木材集積場がない。後背地がない。今日では港でないとこに港を造成する時代である。大分県はまな港の觀念がうすく、門司、下関には港の管理組合があり、知事と市長が交替で責任をとつてゐる。等

港、港に對する注文を前から考へていたように、とどこおることなく、卒直に批判して下さつた。

初代佐伯植物防疫所所長は、この仕事がおもしろくてたまらないと云つた印象をお方であつた。

(附記) 樺入の因縁に添えてあるカツコ書、姓は、同行の生徒クラフマンの合記記録によるものである。

(ミノ取終り)

塚田研

養賢寺の墓地とよめる会

十二月六日(土曜)午後三時より実施

数えられたのが三回目か、この日は鶴城高校女生二名、平井常人六、それに情状正人念員と新頼が加わり十人はかりになり、先ず先利家墓所からはじめて、なり丹念にしつてまわる。幸い、高橋氏が墓地の裏面をゴビにたつて多数下つたこと、平井氏、佐伯協会員の案内で、思ひの外歴史の人物の眠つてゐる墓を知ることが出来た。我々をこぼれ半分ほどまわつたところ、雨がシトシト降り出し、午後三時半をすぎ中止、雨が改まらぬ一層、といふことで終つた。(非)